

建設トップランナー倶楽部が総会

# 14年度事業計画を承認

## 和田代表幹事は顧問に

建設トップランナー倶楽部(和田章代表幹事、米田雅子代表幹事)は7日、東京都内で幹事会総会を開き、写真、2013年度収支決算・事業報告、14年度収支予算を承認したほか、第9回建設トップランナーフォーラムの開催、視察研修会の実施など14年度の事業計画を決めた。また、同倶楽部の発足以来、米田雅子氏(慶應義塾大学特任教授)とともに代表幹事として運営に携わってきた和田章東京工業大学名誉教授は、顧問として支えてこられたことになった。



■第1部・複業と技術革新による産業の創出

【発表者】工藤建設(岩手県)、瀬戸建設(神奈川県)、大見海事工業(青森県)  
 ■第2部・建設業の方で地域活性化  
 【発表者】山善(神奈川県)、広瀬組(新潟県)、日本青年会議所建設部会  
 ■第3部・東日本大震災

からの復興  
 【発表者】明和土木(岩手県)、住研工業(宮城県)、陰山建設(福島県)  
 ■第4部・社会インフラと人材を守る  
 【発表者】大空総合管理協同組合(北海道)、星野建設(長崎県)、加藤建設(愛知県)

7月8日に港区の建築会館ホールで開く第9回建設トップランナーフォーラムについては、メンバー「インフラの町医者をどう育てるか」、開催概要、プログラムの説明のあと、4部構成それぞれのテーマ、発表者アドバイザーを報告し、承認した。パネルディスカッションのパネラーの選考については、同フォーラムの実行委員会でさらに協議することを申し合わせた。

当日は、5月30日と31日の両日に行われる福島県視察研修会の日程と研修内容を報告したほか、杉山文康氏(杉山建設社長・岐阜県)が新たに運営幹事に加わることを承認した。  
 第9回建設トップランナーフォーラムの部別テ

発表者は次の通り。



### 業界全体の魅力向上が鍵に

地域建設企業の人材をどう育てるか。7日に開かれた建設ト  
ップランナー倶楽部の研修会では、リクルートやメディア関係者、  
国土省の幹部を招き、地域実情を踏まえ活発に意見を交わした。  
(3面に記事)

地域建設業の  
材  
人

## 「どう育てるか」を議論

リクルート、メディアの見方学ぶ

■1面関連■都内で7日に開かれた建設ト  
ップランナー倶楽部(米田雅  
子代表幹事)の幹事会総  
会の研修会では、「地域建  
設業の人材をどう育てる  
か」をテーマに議論が交  
わされた。リクルートや  
メディアの立場からの見  
地・建設産業界建設市場  
事業評価保全管理官、土  
宜之建設システム管理室  
リクルートキャリアの  
狩野美鈴キャリアカウンセ  
ラーと秋山智美リクル

方、事例発表のほか、全  
国各プロックの概況が報  
告された。議論には、国  
土交通省から大臣官房技  
術調査課の高村裕平建設  
システム管理室長、久保  
宜之建設システム管理室  
長、建設産業界建設市場  
事業評価保全管理官、土  
宜之建設システム管理室  
長、リクルートキャリアの  
狩野美鈴キャリアカウンセ  
ラーと秋山智美リクル

ーディングアドバイザー  
からは、「アピールの仕方  
によっては中小企業への  
応募はある」「ポテンシ  
ヤルのある若手を企業内  
で育成するという風土が  
必要」「独自のブランディ  
ング力で差が付く」「業  
界全体で魅力向上に取り  
組みべき」など、リクル  
ートの立場から地域建設  
業の人材確保の留意点に  
ついて提案があった。  
日経BP社の野中賢日  
経コンストラクション編  
集長は、「地域建設業の  
強みを誰に、どのような方  
法でアピールするかを明  
確にすることが重要であ  
る」と指摘した。その上  
で、「地域建設企業の最  
大の強みは『その地域に  
いること』であり、定常  
的な維持管理業務や自然  
災害への対応をこなしな  
がら、地元住民や教育

機関、企業と連携し研究  
開発や人材育成ができる  
ことがコアコンピタンス  
(核となる能力)である」と  
強調した。  
事例発表では砂子組  
(北海道)の砂子邦弘社  
長が、自社で取り組む人  
材育成方法を披露。「企  
業が変わるには個が変わ  
らなければいけない」と  
とした上で、「クリティ  
カルチェーンプロジェクト  
トマネジメントというツ  
ールを使い人のマインド  
を変える。マインドが変  
われば働き方が変わる。  
働き方が変われば人材が  
育つ」と、人材を育てる  
場を提供することが  
自身の役割と語った。  
この後、北海道、宮城  
県、静岡県、岐阜県、神

奈川県、愛知県など全国  
各プロックにおける人や  
資材の需給動向について  
報告があり意見交換が  
行われた。各プロックか  
らは「高校生の進路の決  
定権を持つ保護者の理解  
が得られる取り組みや学  
校の指導性が必要」「民  
間で育てた若手技術者を  
行政が引き抜くケース  
もある」「資材や人手は  
不足傾向であり、労務費  
た。

### 各プロックが 需給動向報告